



三角巾を使った応急措置法を学ぶ防災訓練参加者

地域巻き込み防災訓練

帯広・宮坂建設工業 2部構成に3千人

帯広市の宮坂建設工業は26日、地域住民参加型の防災訓練を市中央公園などで開いた。住民ら約3千人が参加、応急措置の体験やバケツリレーなどを行い、大災害に備えた。

今年で20回目。2003年9月26日に発生した十勝沖地震を受け、05年から住民参加型としている。訓練は2部構成で行われ、1部は帯広市近郊で震度5強の地震が発生した

03年の想定で、同社員らが市内の河川や道路のバトロールを行った。

第2部では、市内の小学生や高校生らが参加し、土のう作りや三角巾を使った応急措置

生徒らが土のう作りや応急措置

を学んだ。また、地震体験車の試乗も行われ、住民らが東日本大震災時と同じ震度7の揺れを体験した。三角巾の使い方を学んだ帯広農業高3年の小沢修也さん(17)は「いざという時には使えるようにしたい」と話していた。

(高尾晋)



札幌支店とテレビ会議システムで連絡をとる災害対策本部

3000人規模 住民参加型防災訓練

炊き出し訓練…カレー2000食

契機に、協力会社や発注官 連絡を取り合った。 庁、地元商店街などに案内 午前十一時からは近隣に を出し、対外的に実施する ある帯広中央公園に本部を 地域住民参加型防災訓練を 移動。防災関連の機器の展 示、土のうづくり体験、災 地域住民の防災意識の高 害時空中撮影システムの実 場に努めたことから、一般 演、地震体験車の試乗やバ 社団法人全国建設業協会 ケツリレによる消火訓練 (浅沼健一会長) が顕彰す などのを行った。

る二十三年度の地域貢献活 会場には、帯広市立東小 動労者表彰を受賞した。 学校の児童や帯広工業高校 この日は、午前九時に帯 校の生徒、地元商店街や各発

使って、土のう積みや木流 なるって防災に取り組んでい の紐をしっかり結び、迅速 したい。竜巻や地震、津波 に積み上げていった。

月の輪工と呼ばれる漏水対 策を行い、住民と一体と なるって災害時の迅速な対応 に備えた。

宮坂社長は「大規模災害 から地域住民の皆さんを守 るのが建設業の使命だと考 えており、地域と一体と

の紐をしっかり結び、迅速 したい。竜巻や地震、津波 に積み上げていった。

また、準備作業として縄 結びの訓練も行われ、葛西 室長が「かみくし」「イ ボ結び」など八通りの方法 を実演しながら解説。参加 者は真剣な表情を見せ、熟 練を自指して縄結びに挑戦 していた。

これに先立って、札幌市 北区の札幌支店では、震度 5強の地震発生を想定した 午前九時に、対策室を立ち 上げた。帯広本社の対策本 部とスムーズな連携を取る べく、テレビ会議のデジタ ル回線を使い、迅速な連 絡、指示の伝達を訓練。市 内の各現場のパトロール結 果報告などをもちに、本番 この日は「積み土のう工」「木流し工」「月の輪工」

【帯広発】宮坂 建設工業(株) (帯 広、宮坂寿文社 長)は二十六日、 同社の全役職員を 動員して第二十回 地域住民参加型防 災訓練を行った。

宮坂建設工業が20回目

午前九時に帯広市 近郊と札幌市近郊 で震度5強の地震 が発生したことを 想定し、帯広、札 幌の二カ所を実施。帯広市 では本社に災害対策本部を 設置した。午前十一時から は帯広中央公園に本部を移 動。発注官庁や協力会社、

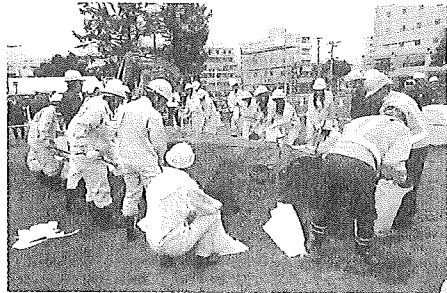
地元小学生や地域住民など 三千人が訪れ、水防訓練や 地震体験車試乗訓練などを 行ったほか、炊き出し訓練 としてカレーライス二千食 分を用意し、来場者に無料 で振る舞った。

同社では、大規模災害か ら地域住民の安全を守るた め「災害対応マニュアル」 を作成。発注官庁と連携し ながら、地域住民の安全確 保のため、職員、資材、機 材を二十四時間体制で待機 させている。

五年から同社単独の防災 訓練を行ってきたが、十五 年に発生した十勝沖地震を

帯広市近郊と札幌市近郊で震 注官庁、地域住民など約三 千人が来場、炊き出し訓練 とを想定。本社内に宮坂社 長を本部長とする災害対策 本部を設置し、テレビ会議 システムを使い札幌支店と 地震体験車の試乗では、 体験者が悲鳴を 挙げながら振動 に耐え、地震の 恐ろしさを実感 した。

また、水防訓 練では、決壊し た堤防を復旧す るため、帯広工 業高校の生徒も 土のうづくりに 参加。重機を



土のうづくりには高校生らも参加し、防災意識を高めた

【岩見沢発】宮坂建設工 業(株)札幌支店(佐々木勝幸 支店長)の現地実技訓練は 二十六日午前、同社が施工 中の二石狩川改修嶮淵右岸 地区遊水地周囲堤ほか工 事(札幌開建発注)の現 場事務所前で行われた。嶮 理室長のアドバ イスどおり、土



真剣な表情で水防工法の訓練に取り組む参加者

水防工法 熟練目指せ

地域住民ら参加

札幌支店 長沼で実技訓練

の三工法に参加 者がチャレンジ した。

積み土のう工 法の実践では、 指導した同社の 葛西正喜技術管 理室長のアドバ イスどおり、土

地域住民交え
地震対応学ぶ

宮坂建設工業
防災訓練実施

【帯広】宮坂建設工業(本社・帯広、宮坂寿文社長)は26日、帯広中央公園で地域住民を交えた

防災訓練をした。関東大震災などの揺れが体感できる地震体験車を用意して怖さを紹介し写真。対応を確認して有事に備えた。



2003年の十勝沖地震をきっかけに毎年実施し、ことしで20回目となる。午前9時に震度5強の地震が発生したと想定し、本社と札幌支店に対策本部を設置。十勝川や途別川、施工現場をパト

ロールし、無線機で報告する訓練も手掛けた。

帯広中央公園での訓練には帯広開建や陸上自衛隊、帯広消防本部などが参加。町内会関係者や東小児童、帯広工高生徒も参加して、消火のパケツリレーや三角巾を使った応急措置などを体験した。

十勝沖地震や阪神淡路大震災、東日本大震災の揺れが体感できる地震体験車に乗り込んだ小学生らは「怖かった」などと言いつづけていた。

宮坂建設工業
札幌支店

地震や大雨に
備え訓練実施

【岩見沢】宮坂建設工業(本社・帯広)札幌支店は26日、長沼町嶮淵合

同事務所近くの堤防敷地で防災訓練を実施した。写真。

社員や協力業者、地域住民のほか、札幌開建千歳川河川事務所の職員ら合わせて約100人が参加した。この日は震度5

強の地震と大雨洪水警報を想定。札幌支店と本社対策本部のテレビ会議後、午前10時から長沼町で水防訓練に入った。

会場は同開建発注の嶮淵川繁殖橋下流築堤基盤処理工事など2件の現場事務所周辺。冒頭、佐々木勝幸支店長が「いざと

いざときの備えになるの



種類の縄結び後、積み土のう工を実施。土のうを結び付けた木で河川の流速を低減する木流し工や堤防の漏水対策として月の輪工も行った。

防災訓練に最多3000人
地域住民参加で宮坂建設工業



地震体験車で揺れの怖さを体感する住民

宮坂建設工業(帯広市、宮坂寿文社長)は26日、大規模地震の発生を想定した地域住民参加型の防災訓練を市中央公園で行った。地域の企業や学校などから過

去最多の約3000人が参加し、地震体験車や火災時の煙の体験などで防災の知識を深めた。訓練は1993年から実施しており、十勝沖地震の発生を契機に2003年から地域住民にも参加を呼び掛けている。午前9時に震度5強の地震が発生したと想定し、本社に災害対策本部を立ち上げ、河川や建物を点検パトロールした。中央公園では午前11時からカレイライスの炊き出し、土のうを積み上げる水防訓練などを行った。地震体験車では東日本大震災など過去の9例の地震の揺れを体感でき、市内の会社員東條加奈恵さんは「考えていたより巨大地震がずっと怖いものだと分かった」と驚いていた。同社の長谷川雅毅常務は「近隣町内会からも多く参加してもらった。少しでも防災意識向上につながれば」と話した。(眞尾敦)